

やっぱり真冬は寒いですね。朝、通勤、通学に行き交う人々の白い息を見ると、一年のうちで一番寒い季節を迎えたんだと感じられます。さて、すっかり生きものたちの息づかいもきこえなくなりましたが、よーく神経を集中して探してみると・・・、いますいます！じっと寒さに耐えて春を待つ姿が！今回は、そんな虫たちの冬ごもりのようすを観察します。

◆卵で冬ごもり

木の多い公園や雑木林に行くときによく見られるジョロウグモ。大きくて美しいクモですが、さすがに冬になると大人のクモは見られません。木の幹にはりつくように、卵のかたまり（卵のう）がありました！親グモが糸で袋のような膜をつくり、保護しています。この卵のうの中にはたくさんの卵が入っていて、5月から6月頃にふ化します。



ジョロウグモの卵のう（くずれかけています）と成体（メス）

◆幼虫で冬ごもり

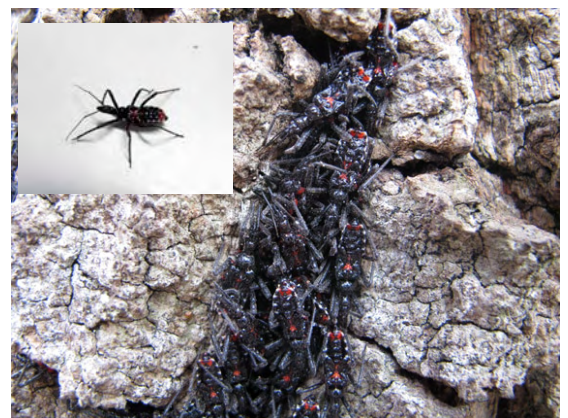
チョウの中には、幼虫で冬を越すものと、卵で冬を越すものがあります。写真は、ゴマダラチョウの幼虫です。エノキの葉を食べるのですが、冬の間はこうしてエノキの根もとの、落ち葉の裏でじっとしています。まるで忍者のようですね。こうして幼虫の姿で越冬する昆虫は意外と多く、幹の洞（うろ）や、くさりかけた倒木の中、落ち葉の下など、いろいろなところで冬ごもりしている姿が見られます。ただし、観察するときはそうっとめくって、見終わったらまた同じように戻してあげてください。そのままでは外敵に見つかってしまうのはもちろん、日が当たって体温が上がってしまうだけでも致命的です。起こさないように観察してください。



エノキの葉の裏で越冬するゴマダラチョウの幼虫

◆最近ふえた外来種も！

最近、急激に分布をひろげてきた昆虫も、意外なところで冬ごもりしています。写真のように、木の幹のごつごつしたすき間に黒い固まりがどっちらくつついています。これは、ヨコヅナサシガメという肉食性のカメムシのなかまの若い個体（亜成体）です。もともと関東地方にはいなかったのですが、20年ほど前に初めて見つかって以来、どんどん分布をひろげ、相模原市内でも今ではふつうに見られるようになりました。暖かい地方からひろがってきたためというわけではありませんが、ひしめきあっている姿がなんだか寒そうですね。



クヌギの幹で越冬するヨコヅナサシガメの亜成体

次回のお知らせ

ミニ観察会：2月18日（土）11時から

新聞 No. 10 も観察会にあわせて発行します。